

例会報告

Rotary



高山西ロータリークラブ

No. 2561 例会
平成 30 年
12 月 23 日



第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- | | | | |
|------|---------------------------|--------|--------|
| ●例会日 | 毎週金曜日 12:30~13:30 | ●会長 | 門前 庄次郎 |
| ●例会場 | 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988 | ●幹事 | 田中 正躬 |
| | 大垣共立銀行 高山支店 4F | ●会報委員長 | 黒木 正人 |

CLP 検討例会
「おなじ星を見ていた - ギアリングスの架かる虹 -」より
修道院 内田 新哉

<会長の時間>

本日は当クラブの現状、将来の有り方などについて話し合う場を作りたいとの思いで年末の忙しい時期ではありましたが、夜間移動例会にして少し多めに時間をとりましたので宜しくお願いします。



また、先日戦略立案計画についてのアンケートの回答をお手元に届けておりますので、参考にして頂きたいと思っております。

さて当クラブには 54 年の歴史があります。先輩方に築いて頂いた歴史と伝統があります。それを大切に守って行きながらも、今に合った、今のメンバーに有った仕組みや活動計画を考えて行く事は大切だと思います。そして RI でも「こうありたい」と言うビジョンを描き、それに沿った目標と行動計画の素となる「戦略計画」を立てる事を推奨されています。

そんな事を踏まえ、昨年度 CLP 検討委員会を改めて立ち上げて頂きました。そして今年度も引き続いて三代の会長・幹事を中心として検討委員会を立ち上げ、3 回ほど話し合いをしてきました。その内容を組み込んで、先日のアンケート結果と共に資料として出させて頂いております。また RI の推奨する組織図をもとに検討委員会で考えた西クラブの組織図(案)も出させて頂きました。勿論これは一つのたたき台として見て頂ければと思いますし、資料に本日の議題を上げておりましたが、一つ一つやっていると時間が足りませんので、こんなような内容で自由に話あって頂ければと思います。

クラブの有り方を考えて行く上で大切な事は、幅広い見解を取り入れるため、出来るだけ多くの会員に意見を出して頂く事が大切に思います。本日は当クラブの現状・課題・3~5 年後のあるべき姿等について皆さんで考え、意義のある例会になる事を願ひ会長の時間とさせていただきます。

引き続き昨年度 CLP 検討委員会を立ち上げられました、米澤前会長にお話を頂きます。

CLP 導入検討の経緯について

直前会長 米澤 久二

クラブリーダーシッププラン (CLP) の導入が話題にのりはじめてから随分と経ちます。その後、齋藤年度で CLP 準備委員会が立ち上がりました。

当時クラブも活発で CLP 導入の必要はない、と意見もあり準備委員会は開店休業となりました。会員が 40 人前後の年度が続き、クラブの活性化を図る必要があり CLP 導入の検討を進めることが必要だと思ひ昨年度準備委員会を再開し、門前年度で準備委員会を何回か実施していただきました。



昨年実施した「クラブ活力テスト」の結果では A から E ランクまでであるうち、中ほどの C ランクになりました。現状と対策は以下のように分析されました。ランク C の現状は『あなたのクラブはロータリーの理念に沿った活動を実施しており、一定の成果も挙げっていますが、一部の領域で硬直化が進みメンバーの意識にもばらつきがみられます。』

対策として『クラブの強みと弱みをメンバー全員で再確認し、体質改善・組織強化の中長期計画を策定し、それに基づいて具体的プログラムを実施しましょう。』という診断でした。

今後「CLP 導入ありき」ではなくクラブを活性化させるための一つ的手段として CLP 導入の検討をしていただければ、いいと思います。今夜の例会ではクラブの活性化に向けた意見を出していただければいいと思います。

<ニコニコボックス>

●門前 庄次郎さん、田中 正躬さん

本日は今年最後の例会であり、上半期最後の例会です。半年間の予定の活動を無事終了することが出来ました事、あらためて感謝申し上げます。有難うございました。また本日は西クラブの事を「皆で考える」という事で夜間移動例会にさせていただきます。またこの後忘年会もでございます。今年最後の良い例会、そして忘年会になります様ご協力をお願いします。

●鴻野 幸泰さん

本日の例会弁当、鴻野旅館ご利用誠にありがとうございます。

●斎藤 章さん、遠藤 隆浩さん、田中 正躬さん、垣内 秀文さん

本日は CLP 検討会です。皆さんご討議お願いいたします。

<テーブルディスカッション>

本日の議題

1. クラブの現状 クラブの長所・短所
2. クラブは何を目指すべきか (3~5 年後の有るべき姿)
3. クラブ活動の核・指針となるスローガン
4. クラブの今後の組織体系 5. その他



インスピレーションになろう

例会報告



Aグループ書記・発表者 田中正躬

クラブ自体を樹木にたとえ、枝葉が有って、根が有って、どこにどんな実をつけさせるか、図示して話し合う。

RCになぜ戦略計画が必要で、何を目指して行けば良いのか。これまでクラブの活動形態は、不連続の連続だったと思う。前年度の実施内容を翌年度に反映させるという引継ぎ連携が不十分だったと思う。継続性のある事業もあるが、単純に継続しているだけで、その中身について反省（議論で揉む事）をした事がない。委員会の構成も再検討し、その中で多岐にわたって評価・検討し、見直すことが有れば、見直す必要があるのでは。

更に、その構成には専任の理事が付いて動向をリードする様になれば、理事の役割も明確になり活性化に繋がるのでは。今の理事形態では理事と言う名目だけで何も役に立っていないのでは。

地区へ出向している人達について、その方達が地区へ行ってどんな話がなされたか、何が課題になっていたかなどなど話して頂ける機会が今まで無かったと言ってよいのでは。外では、どんな事が話題になり、どんな事が検討されているか、外の声を聴かせてもらいたい。その為には、西クラブでの立ち位置を確保するべきでなかろうか。きっと役に立つ話が聞けると思う。

我がクラブには特徴は？と聞かれても是ですと言える人はいない。ブランディング戦略と言うか、是と言えるものを作る必要があるのでは。新入会者を確保するにも、脱会者を留めるにも、その事が魅力となって行くのでは。

脱会者の退会理由は何だろうか？ここら辺を分析改革することにより脱会防止を計れないだろうか。

ミニソフトバレーを支援していることについて、アンケート調査をしても支援をやめたらと言う人はわずか、その様な中で、今年のような取り組みは意義があったと思う。なぜこの様な支援を続けているのか知らない人もいる中で、一層の理解と意義を深める事が出来たのではないだろうか。



Bグループ書記・発表者 堺和信

Bグループでは、CLP を考えるより高山西ロータリークラブの将来をどうしていくべきかを検討しました。クラブを運営していくためには、会員の退会者を防ぐことと増強を図ること不可欠です。そのためにはどうしたらよいかを検討しました。まず、女性会員を入れること

により、明るく活発な活動をしてくれるのではないかとという意見がでました。しかしながら、市内にはソロプチミストや商工会議所女性部など女性だけの会があり活発に活動されており、なかなか勧誘には難しいところがあります。次に、新しい業種が増えている中で新たな職業分類により会員の増強を図っていくことが必要であるという意見がでました。そして、IT を使い SNS 等で若者をはじめ多くの人たちに高山西ロータリークラブの活動を知っていただくことが必要ではないかとという意見がでました。最後に、クラブ内だけの活動ばかりではなく、体を使った対外的な活動を多くし、継続することにより多くの市民に活動を知っていただくことにより、このような活動に賛同し仲間となっていただく方が増えてくるのではないのでしょうか。



Cグループ書記・発表者 山下直哉

現在は人数も以前より減っているのに事業の見直しがされていない。人が減っても色々やりすぎている感じ。40人で赤字予算の運営でやっている事業削減を含めて方向性を決めていただきたい。

組織についても見直しが必要で、一般的に5人くらいのグループが妥当で40人だと8グループが限界ではないか。委員会の大事なものは2年制にしてみてもどうか。

委員長が若い人に代わってきているので殆ど会のことを理解しないままやっている。相談できる機能や機会があると良い。新入会員にも同じようにオブザーバーを付けるようにしたほうが良いのではないかと。

クラブの方向性・将来について、世界に向けたものではなく高山（地元密着型）の奉仕活動をやっていきたい。キャリア教育の出前講座など凄く意義があると思う。

基本方針の一つ決めてそれに向かって、全員で進んでゆく高山西らしさ打ち出していきたい。それによってクラブに合う会員を募集するなり希望される方も出てくるのではないかと。

Dグループ書記・発表者 塚本直人

高山西クラブの良い点は年齢層が幅広く、派閥などが無いところ。ただし、深い意見交換が行われていない点は短所ともいえる。女性会員がいないが人数調整のために無理やり入会させても意味がないと思われる。

毎年所属委員会が変わる傾向があるため継続した議論やプログラムが行われにくいともいえる。その弱点を解消するためにも会員増強委員会などは3年程度継続的に所属して、不連続の連続から脱出すべきことを考えていくべきである。

3から5年後のクラブの姿を考えると、活動計画を絞った事業の継続により、イメージしやすいクラブとしてのブランディング戦略が必要である。どの事業を残し、廃止する事業は何なのか等も含めて各テーブルのメンバーを変えながら、引き続き意見交換の必要があると思われる。



インスピレーションになろう